

H28年度行動障害がある発達障害児者への支援とは 事後アンケート集計結果

資料2-6

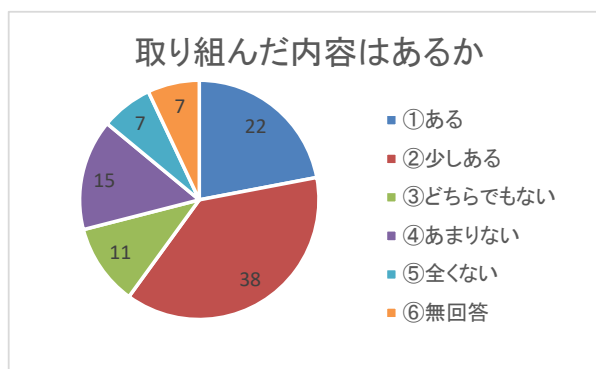
アンケート配布数 40 人 アンケート回収数 27部
アンケート回収率 68%

●所属についておたずねします。

	児童発達支援センター	放課後等デイサービス	教育機関	福祉サービス事業所	相談機関	入所施設	その他	合計
人数	2	6	1	11	2	2	3	27

1. 取り組んだ内容があるか。

	数	%
①ある	6	22
②少しある	10	38
③どちらでもない	3	11
④あまりない	4	15
⑤全くない	2	7
⑥無回答	2	7
合計	27	100



2. 具体的な内容

- ・職員の中からも、その必要性を実感する者が出て来て、言語指示よりも視覚的手がかりの方が子どもは理解し易いと、絵カードを作成し、準備をしている所である。また、子どもの特性や傾向を考慮するようにもなって、個別毎のスペースの取り方、共有空間の設定など部屋の物理的構造化やホワイトボード(小)を用いて予定を視覚化する、視覚的スケジュールの提示を行うようにして、その日の過ごし方の見通しをもたせるようにしている。利用者が理解し易い環境や遂行のための支援を充実してゆく上で、欠かせない方法なので、更に検討実施していきたい。
- ・これまででも行動問題と対応方法は、考えながらやっていたが、研修会を終わらせて、さらに深く考えるようになった。その子どもに応じてトークンを取り入れたり、視覚的に伝えるようにしている。
- ・所持品整理等で、やる事が分かっている、周囲が気になり行動することが難しい。又、大人の声かけに敏感で、手足が出てしまうお子さんについて、個別空間を作る、流れの絵カードを使用し、1人で行えるようにした。終わったら、最後に、自分の好きな絵本を見る時間にした。
- ・クラス全体で、出席はなまるチェックリストを作り、〇個はなまるがたまったら、お楽しみ会をクラスで行う様に現在も行っている。
- ・絵カードを用いて意思の伝達や荷物の整理をした。特に上着をかけるハンガーに、自分の好きな絵をつけると、個人差は、あるが、これは自分のハンガーだと認識してくれた。
- ・相談支援専門員として、各事業所様に話し、利用者様へのアプローチをしていく中で、取り組んでいくことや、一緒に模索して、情報の共有をしてきた。
- ・発達障害を持つ本人の母親との面談にて問題行動についてABC分析を行った。スタッフ研修や事例検討で活用した。
- ・子どもたちの行動の意味を考え、支援を行った。
- ・まず、「あしたのつばさ」は特別支援学校、特別支援学級の児童を対象として、放課後にスポーツを指導する事業所である。研修会を受け、取り組んでみた1例である。私個人的には、常に子どもと接するとき、その子にとっての好子、嫌子を考えるようになった。(別紙参照)
- ・次々と指示をするとストレスになるため、声かけをしすぎないこと。1~2回の声かけ後、待つようにすると、自分で行動できるようになった
- ・通級指導教室の送迎に来る保護者にご家庭の支援のアイデアを提案できた。例えば、場所、活動
- ・自分の心得としてパズル式トークン、パズル式レスポンスコストの違いに対する意味づけの理解等。
- ・通常学級の担任へ「最終目標は、自立！ よってプロンプトは外していくもの」と助言できた。プロンプトが多ければ多いほど「熱心な教員」という評価のためにがんばっている担任へ。
- ・重度の利用者に対して、1日の流れを写真カードで提示。見通しを持たせることで、落ちついて、すごしてもらおう働きかけを行った。
- ・自ら新たに行ったことではないが、現在利用者の支援の中で、絵カードや写真で視覚的に支持をしたり、言葉で伝える場合でもあいまいな表現ではなく、短い言語で的確に伝えたりすることを実践している。研修で学んだことが、今行っている支援に生きてると実感している。今後、行動障害に直面した際に、ABCモデルを基に利用者の思いを理解し、寄り添った支援を行いたいと思う。
- ・PECSを参考にした絵カードシステムを作成し、児童の理解力や興味に合わせて、その都度絵カードを追加している。また、放尿や自傷行為、破壊などの不適切な行動面が減少するように静かに落ち着ける環境調整など行っている。
- ・ヘルパー活動中はスケジュールを利用している。写真やカードで提示している方や、文字だけの方と人に合わせて

使っている。

- ・SSも入ることがあり、良くない行動をする方もいる。その時、良い行動、適切な行動をとることができた時、ほめている。
- ・自閉の利用者の方のスケジュール内容の見直しを行った。行事の際などこれまでは口頭での提示を行っていたが、写真やイラスト付きのスケジュールを提示するようになり、こだわり部分が少なくなったよう感じた。壁けりなどの行動に対して弱化的な手続きや適切な行動を伝える部分について
- ・利用者さんのお母さんと一緒に、ABC分析を作成した。簡易ABC分析フォーム、行動問題の原因のまとめと対応法を考えるシートを2人で考えながら、作った。
- ・合理的配慮を求める際に発達障害について、具体的な対応を理由をもって説明する必要があり、課題分析等のために活用ができると思った。
- ・行動問題に対する考え方について、新規職員及び、経験の浅い職員に話をした。問題だけを見る職員が多かったので、伝えやすかった。

3. 難しかった内容や理由

- ・絵カードなどは、今の支援で取り組んでいる。絵カード以外で有効な支援があったら、取り入れていきたいと思った。
- ・保育リーダーとなることがなくなったので、実際活用するのは難しかった。
- ・個人としては、勉強になったが、実際に研修をおえて、事業所で取り組みについての話の場の設定がない。現場支援員全員の参加なら、意識も共有できたが、1人で何かを提案したり、立場を超えてアクションを起こすことにかべがある。
- ・受講者が内容をよく理解できていなかった為、支援にどう生かせばいいのか分からなかった。
- ・新人の為、どのように取り入れていかかわからない。誰にどのような取組をしていくことが必要かわからない。重度の方が多く、年齢も40代～60代の方が多いため、研修内容をどのように取り入れていくか、難しく感じた。
- ・考え方として、職員と話をする機会はあったが、全体でシート等を活用して問題について、話をするとところまで至っていない。
- ・直接的な支援者ではないため、まだまだ理解が十分でない。(身につけていない)助言や実際までもっていくことができなかった。
- ・発達障害の支援をしているが、特に行動障害まではいかなくて、本人が気分チェック表をつけて、現在はこれでコントロールできている。行動障害で勉強した内容を応用する形では、使っていけそうな事があるので、やって行きたいと考えている。

今後受けてみたい講義・内容

<内容について>

- ・ABA(応用行動分析)の理解は、必需ですが、ステレオタイプな理解とならないよう(特に若い方には)、人間学的観点からも、ABAを説明されるとより身近なものとなるのではと思う。これを応用する側の人間的成長やヒューマンな「ありよう」を感じさせる人が少ないように思われる。今のところ残念ながらこれに適する講師を存じ上げないので、申し訳ない事を申している。いずれにしても、若手の自閉症スペクトラム支援士やコンサルタント等が輩出しているので、学ばせて頂きたいと思っている。
- ・発達障害の支援に関しては、得に興味もあり、今後スキルアップしたいと考えている。スペシャリストの支援方法等が学べたらと思っている。
- ・高齢化していく今後の障害のある方への支援について。
- ・レクリエーションの幅を広げたいので、このような研修があったら参加したい。
- ・自発的な行動及び言語がなかなか難しい障害の方の支援等があれば、聞いてみたい。
- ・放課後等デイサービスを利用している、障害児の方の研修。発達障害など事例を取り入れたことがあれば、ぜひ参加したい。また、つばさでの発達障害の受付からの流れなどの様子があれば、ぜひ、拝見したいと思う。(児童のケースで)

<講師について>

- ・神戸大学大学院 山根隆宏教授、立正大学 中田洋二郎教授
- ・東田直樹さんの講演会を北九州で開催できたらいいなと思う。
- ・事例検討。水野敦之先生
- ・岡田 尊司Dr
- ・坂井聡先生のお話をぜひお聞きしてみたい。
- ・また、今本先生の研修に参加出来れば参加したい。
- ・大阪の山田充先生のお話が聞きたい。
- ・稗田病院本田秀次医師。西南女学院大学野田幸弘氏。筑紫女学園大学酒井均氏。山口大学木谷秀勝氏等。